

○１８番 荒木優丞君

今元中学校３年、荒木優丞です。私は、行橋市のホームページについて質問します。

行橋市のホームページで言語を替えようとする、パソコンとタブレットでは、言語設定画面がすぐに出るけれども、スマートフォンでは、閲覧補助を押してからでないと出てきません。外国の方でもスマートフォンでもすぐに言語設定ができるようにデザインを変えることはできませんか。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。まず、こういったところに気付いていただいて、本当にありがとうございます。

まず、このスマホで市のホームページで言語の設定を変えることができるのかどうか、というところですが、タブレットと全く同じようなデザインに変えることは、どうもできないようなんです。ただですね、言語を変えるボタンがどこにあるか、どうすれば変えられるのかをより分かりやすくするガイド・案内をホームページに追加することは、おそらく可能ではないかということでございます。ですので、デザインそのものを変えるわけではなくて、いま申し上げたようなガイドを追加する、そういった改善をする。

ただ、いずれにしても、このホームページを変えていく段階で、場合によっては費用がかかってくる可能性がありますので、今いただいたご意見を踏まえて、やはり行橋市に住んでくださっている外国人の方々ですから、より使いやすいように、より分かりやすいように、そういったものを心掛けて、議員からいただいたご意見も参考にしながら、改善を進めてまいりたいと思います。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

荒木議員。

○１８番 荒木優丞君

ありがとうございました。次の質問に移ります。

次は、学校の校舎について質問します。行橋市内の学校は、全体的にとっても古いです。その中でも、私が通っている今元中学校では、廊下のタイルがはがれていたり、渡り廊下が雨漏りしていたり、壁がひび割れたりしています。安心して通える学校にするためにも、改修していただけないでしょうか。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

まずは、荒木議員が今回の質問に際して、学校の状況をたくさん調べて、その結果を教えてくださいまして、ありがとうございます。

先ほど赤星議員からのご質問にも答弁させていただいた通り、市内の学校の多くは、建設から50年以上経っている学校もあります。これまで、先輩方も含めて、今も大事に使っていただいています、それでも長く使われていますので、学校内の壁や渡り廊下等、あちこち老朽化、劣化している箇所があるのではないかと思います。

教育委員会では、校舎を長く大切に使っていけるように、長寿命化計画という計画をつくり、市内小中学校の古い所や状態が悪い所から順番に改修を行っています。

大規模な改修はそのように対応していますが、それ以外の老朽化・劣化した箇所は、学校で修繕をしたり、場合によっては改修工事をしたりして修理をしています。

その修理をする際の優先順位としては、児童・生徒の皆さんの安全にかかるような箇所の修理をまず最優先として考えていまして、その次に、授業や学校行事といった学校運営に支障を及ぼしかねないような箇所、そして、最後に汚れや見た目の悪い箇所といった順で修理をしています。今回教えていただいた老朽化・劣化した箇所も、必要に応じて修理するなど対応したいと考えています。

教育委員会としましては、まずは不具合箇所を把握することが大事だと思っていますので、今後も気付いた点があれば、先生、学校を通じて教育委員会へ教えていただければと思います。よろしく願いいたします。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

市長。

○市長 工藤政宏君

私のほうからも答えさせていただきます。

きょう皆さん方からいただくほとんどの質問に関しましては、やはり予算、コストといったものがかかってきます。簡単に言いますと、教育委員会は教育長をトップとした教育委員会という組織、主に学校教育などを司る部署になりますけれども、それから我々、市長・執行部に関しましては、財源、お金の部分を管理したり、それから予算をどこに配分するか、そういったものを考えさせていただく機関、実は一緒の機関のようであって、厳密に言うと機関が別なんです。

まず、我々としましては、学校から生徒の皆さん、あるいは先生方から、ここを修繕してほしいとか、そういった声が、学校現場で直せない場合は、そういった声が教育委員会にあがってきます。そして教育委員会の中でさらに議論します。そのときには、先ほど教育長が申し上げたように、長寿命化計画というものがあって、いつかの段階で建

て替えなければいけない。あるいは子どもたちが、いま日本全国でどんどん減ってきています。子どもが減っていつているのに建物を全て残していくということが、果たして最も良い方法なのか、どうなのか。そういったことも考えていかなければなりません。これはあらゆる公共施設のことですね。

ですので、そういった長い、中長期的な時間の中でどのようにしていくのか。本当は全てお金をかけて、すぐに全部きれいにしたりできればいいんですけども、それをする、非常にもったいないことになってしまう可能性もあるわけなんです。だからちょっとここは我慢してくださいね、とか、もうちょっと我慢してください、というようなところが出てくるわけなんです。

ただ、まずは、とにかく安全に過ごすことができないような状況であるならば即対応すると、そういった考えです。

我々、市長・執行部としましては、教育委員会からあがってきた案件で、安全面について、これは必要だという予算については、積極的に予算を付けるようにさせていただいておりますし、常日頃から教育行政で必要な予算については、躊躇なく付けていきますと、そのように私自身も申し上げておりますので、おそらく教育委員会のほうでも、今ご提言いただいたような危険箇所については把握しているものと思っておりますけれども、もし足りないところがあればですね、改めて教育委員会も現場を見ることになると思います。その中で、確実にこれは安全面に関係してくる、影響を及ぼしてくる、そういったところは迅速に対応させていただきたい、予算もしっかりと付けたいと思っています。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

荒木議員。

○18番 荒木優丞君

できる限り、早く実現できるよう、期待しています。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。